大学・附属・地域を結ぶ音楽表現活動の試み

井　上　洋　一　（音楽教育講座）
田　邉　　隆　（音楽教育講座）
楠　　俊　明　（附属小学校）
来　嶋　英　生　（附属小学校）

Attempt of Musical Expression Activity that Connects
University, Attached School, and Regional Society

Yoichi INOUE, Takashi TANABE, Toshiaki KUSU and Hideo KURUSHIMA

愛媛大学教育学部紀要
第 56 巻　抜刷
平成 21 年 10 月

愛媛大学教育学部紀要　第56巻　191 ～ 201　2009

大学・附属・地域を結ぶ音楽表現活動の試み

（音楽教育講座）井　上　洋　一
（音楽教育講座）田　邉　　隆
（附属小学校）楠　　俊　明
（附属中学校）来　嶋　英　生

Attempt of Musical Expression Activity that Connects University, Attached School, and Regional Society

Yoichi INOUE, Takashi TANABE, Toshiaki KUSU
and Hideo KURUSHIMA

（平成 21 年 6 月 5 日受理）

1　はじめに

（1）着想

音楽教育講座では，学部と附属学校との合同研究を構想するにあたって，音楽ならではの表現活動を軸にして，教員，児童・生徒，学生間のコミュニケーションを図ることができないかと考えた。附属小・中学校はともに合唱活動がさかんである。また，学部専門科目の合唱は，最も履修学生数が多く，後期に行うミュージカルでは，履修生以外にも伴奏等で多くの学生がかかわっている。このミュージカルを学外で発表し，そこに附属小・中学生が加わることは，大きな感動体験を共有するコミュニケーション活動となる。また，練習過程で大学生が小・中学生に指導を行う機会が生まれ，教育実践体験の拡大を図ることができるのではないかと考えた。

（2）研究の背景

ミュージカルは近年，日本でも頻繁に上演されるようになった。ぴあ総合研究所の「エンターテインメント白書2008」によると，2007年のステージ市場（ミュージカル，演劇，歌舞伎など）は，観客動員数2103万人であるが，そのおよそ半分はミュージカルが占めている。そのトップともいえる「劇団四季」は，年間300万人の観客動員数を誇り，都市部専用劇場での公演の他，数多くの地方公演を行い，ファン層を拡大している。

愛媛県内においても2006年に「地域文化の発信」をコンセプトに東温市に「坊っちゃん劇場」がオープンし，愛媛・四国・瀬戸内の歴史文化伝統をテーマとした演目を公演している。

このようなミュージカル人気を背景に，音楽教育においてもミュージカルを表現活動として導入する実践が増えている。特に平成10年公示の学習指導要領以来，授業時間の大幅な削減と「総合的な学習の時間」の新設の中で，新しい総合的な音楽表現の在り方としてミュージカルが着目されるようになった。

（3）先行研究

学校におけるミュージカル活動は，小・中・高等学校の音楽教員を中心に多くの実践が行われ，その成果が報告されている。

平成13年度第32回中国･四国音楽教育研究大会（徳島大会）で，井上は八幡浜市立愛宕中学校において行った創作ミュージカルの実践を報告した。表現力を育成してきた音楽科ならではの特性を活かすことによって「総合的な学習の時間」の枠の中で，生徒主体の創造的な表現活動が実現できるとした。

また，神戸市立荒田小学校の西沢は「総合的な学習の時間」の実践として行ったミュージカル活動によって，以下の３つの視点から，自己表現力が効果的に育成できることを導き出している。

① 児童自身が選び決定する機会の導入
② 一人一人の児童が活躍できる場の設定，
③ 児童の自由な表現活動の保障

これらの小･中学校の実践から,「児童」「生徒」を「学生」に置きかえれば，大学教育でもミュージカル活動の有効性が期待できる。

大学教員養成課程での実践として,岡山大学の虫明は,音楽教育講座定期演奏会において行った学生有志によるミュージカル上演について考察を行っている。ミュージカル上演に際し，出演者たちが，楽しさ，充実感，創り上げる連帯感，仲間意識などの高揚感を感じたことをアンケート調査から見出している。しかし,問題点として,練習や準備に要する時間，分担の不明確さ等をあげ，今後の公演継続のためには「学生主体の活動」に持って行くこと，大学教員との連携，総合演習のような横断的なカリキュラム内容の充実等について検討することが急がれるとしている。

２　研究の目的

本研究は，附属小・中学校の児童・生徒と学部学生の協力によって，学外にて音楽表現活動の発表（ミュージカル公演）を行おうとするものである。本研究では，これまで行ってきた松山市や附属学校での公演に加えて，特に芸術公演の少ない南予地域へも出張公演を企画し，本学の教育活動の一環を広く公表するとともに，地域の音楽文化発展にも寄与することを目的としている。

ミュージカルは，音楽に加え，脚本や演出・舞台美術等の要素も含まれた総合的な芸術である。学生にとって，ミュージカルを主体的に作り上げていく過程は，音楽表現技能の習得のみならず，コミュニーション能力や創造力を身に付けるよい機会となるであろう。さらに，公演の成功によって得る感動は，小・中学生や大学生それぞれの学校・学生生活に大きな充実感をもたらすことになる。

また，今回取り組む，附属小・中学校の児童・生徒との共演は，学生が子どもたちに音楽を指導する実践的な場面となり，教員養成の視点からも効果が大きいと考える。

３　仮説の立論

先述の先行研究や，これまで行ってきた学生主体の音楽表現活動の成果をもとに，本研究における仮説を立論した。

【仮説１】

学部と附属学校の連携によるミュージカルの地域公演は，本学の教育活動の一環を広く公表するとともに，地域の音楽文化発展に寄与する。

【仮説２】

総合的な芸術であるミュージカルを主体的に作り上げていくことによって，小・中学生や大学生のコミュニーション能力や創造力を育成し，それぞれの学校・学生生活に大きな充実感をもたらす。

【仮説３】

附属小・中学校の児童・生徒との共演によって，学生が子どもたちに直接，音楽を指導する場面が増え，学生の教職への意識や教師としての技量が向上する。

４　研究の方法

本研究は，恒例の楽友会コンサートにおけるミュージカル公演を，学生主体性にもたせながら，附属小・中学校の児童・生徒と共演させ，また，松山市以外の地方公演を実現させることを，研究の柱とする。また，公演後にアンケート調査を実施し，仮説の検証を試みる。

５　研究の内容

（１）学生主体の運営とミュージカル公演の変遷

本学の音楽教育講座では，旧特別教科（音楽）教員養成課程創設以来，定期演奏会，卒業演奏会等の，大学主催による学外に向けた公開演奏会を開催してきた。これらは，1999年から，楽友会（音楽教育講座に所属する学生の自治組織）主催に移行し，学生主体で計画･立案･運営を行うことになった。そして，2002年から，ミュージカル上演が恒例となっている。

以下は2007年までの演目である。

2002年	キャッツ
2003年	ウェストサイド・ストーリー
2004年	美女と野獣
2005年	ライオンキング
2006年	キャッツ
2007年	レ・ミゼラブル

「公演継続のためには学生主体の活動に持っていくこ

とが必要」とした岡山大学の報告について，本研究では「準備に要する膨大な時間を，正規の授業の中では行うことができず，学生の自主活動に頼らざるを得ない」と解釈している。その点では，本学では，既にその環境は整っており，学生の自治的，組織的な活動に委ねることが可能である。

（２）演目の決定

初のミュージカル上演から５年が経過し，ひとまず思い切った挑戦をしようということから，2007年は「レ・ミゼラブル」（クロード＝ミッシェル・シェーンベルク作曲）を演目に選んだ。「レ・ミゼラブル」は，ヴィクトル・ユーゴーの同名小説を原作としたミュージカルである。1985年にロンドンで初演され，1987年度トニー賞８部門を受賞するなど，ミュージカル不朽の名作の一つとなっている。上演時間は，３時間近くに及ぶが，その高い芸術性ゆえに，学生の挑戦への意欲は高まり，楽友会コンサートとその後の附属学校公演でも，近年にない大好評を博した。2007年度は，それまで附属小学校児童対象の附属学校公演を，附属中学校生徒にも公開する１日２回公演とした。このミュージカルの「今日を，そして明日を生きる」というテーマが，特に中学生から絶大な支持を得て，附属学校公演は反響をよんだ。しかし，上演時間や演出の関係から大幅なカットを行ったこともあり，内容的には未完成で，学生の間でもやり残した感があった。

2008年度は，小・中学生をキャストに加え，また地方公演を行うという新たな目標を掲げた。学生らによる演目決定ミーティングでは，できるだけレベルの高いものを地方で公開したいという意見が大勢を占めた。そのためには，ゼロからスタートするよりも，既存の財産をもとに，レベルの維持・向上や演出内容の充実を図ることが重要という結論にいたり，あえて２年続きで「レ・ミゼラブル」を選んだ。

（３）地方公演先の決定

地方への出張公演は，「レ・ミゼラブル」の内容から，小学校高学年と中学生を対象とすることを考えた。公演先として選んだ八幡浜市は愛媛県の南予に位置する。近年は人口の減少が著しく，学校規模も縮小する一方である。しかし，音楽的な土壌は豊かであり，地域の児童合唱団や中学校の吹奏楽部の活動もさかんである。沿岸地域特有の明るい「浜の気質」もあり，初の地方公演を豊かな感性で受け入れてくれるのではないかと考えた。また，八幡浜市は，附属小学校教諭で，学部非常勤講師として実際に合唱の授業を担当し，ミュージカルの指揮・演出を行う楠，そして，学部音楽教育講座教員の井上の出身地である。両名とも長く中学校教員として勤務した地域であるため，学校関係者の協力を得やすいものと期待した。今後も地方公演を継続するとして，まず初年度の公演先は，縁のある八幡浜市に決定した。

（４）研究計画

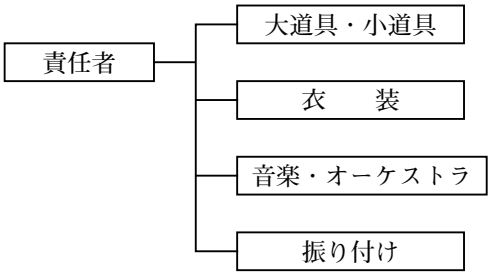
３会場４回の公演を柱にして，以下の計画で研究を進めた。なお，当然のことながら，研究の主体は，教員であるが，活動の主体は学生である。

年月	内　　容
2008年	
６月	演目決定「レ・ミゼラブル」
	台本見直し・作成
７月	オーディション・配役決定
	オーケストラメンバー招集
８月	オーケストラ練習開始・台本修正
	小・中学生募集
９月	ソリストメンバー練習
	オーケストラ自主練習
	小・中学生練習開始
10月	合唱練習開始　合同練習　台本読み最終
	地方公演打ち合わせ・公演会場決定
11月	立ち稽古・オーケストラ合わせ
	大道具・小道具・衣装製作
12月	練習仕上げ
	公演１　楽友会コンサート
2009年	（松山市コミュティセンター）
１月	公演１反省・修正
	地方公演打ち合わせ・会場下見
２月	公演２　地方公演
	（八幡浜市立松柏中学校体育館）
	公演３　附属学校公演
	（附属小学校体育館）
	アンケート実施
	（対象：出演児童・生徒・学生
	公演先児童・生徒・教員）

６　研究の実際

（１）学生の組織と役割分担

楽友会の中には，コンサート係があり，会場の手配や全体の練習計画を立案し運営しているが，それとは別にミュージカル出演者による独自の組織がある。３回生の責任者を中心にして以下の役割分担を行っている。



（２）台本作成

学生責任者と指揮・演出の教員が打ち合わせを行い，原語や日本語訳のスコアを参考にしながら，また独自の演出やカットも考慮して，本公演用の台本を作成した。

（３）オーケストラ・スコア作成

毎年，伴奏のために，市販のピアノや旋律譜をもとにして，その年ごとのオーケストラの編成に合わせたスコアを作成している。分担して行った「耳コピ」や演奏者の編成や技量に合わせたオリジナルアレンジによる手作り楽譜である。

（４）配役決め

７月にオーディションを行い，メンバーのバランスを考えて決定した。このオーディションには，指揮・演出を担当する教員もかかわる。

（５）大道具・小道具・衣装製作

各担当責任者を筆頭に，出演者全員が分担して作り上げた。背景画等は美術教育講座所属の学生に，また大道具や配色・着色の仕上げは附属中学校の美術科教員に協力を要請した。

（６）自主練習・個人練習

主要な役を担う学生は，各シーンの詳細な練習のために，指揮･演出担当教員の指導のもとで，個人練習を行った。担当教員が附属小学校に勤務しているため，小学校の放課後の時間を利用した。本学では，学部と附属学校が近距離にあるため都合がよい。

また，伴奏合わせを行う時期から，オーケストラメンバーは，学部演奏室の空き時間を利用して自主練習を行った。メンバーの時間調整がつかず，夜間や休日に練習を行うこともあった。

写真１　学生指揮によるオーケストラの自主練習

（７）楽友会コンサート

12月23日，楽友会コンサートを開催した。ミュージカルは，多くの観客から昨年よりもレベルアップしているとの賛辞を得た。また，共演した附属学校の児童・生徒も，リハーサル時から学生と行動をともにし，交流を深めた。ミュージカルの好演が話題となって，楽友会コンサートの集客数は，近年増加している。

（８）八幡浜公演打ち合わせ

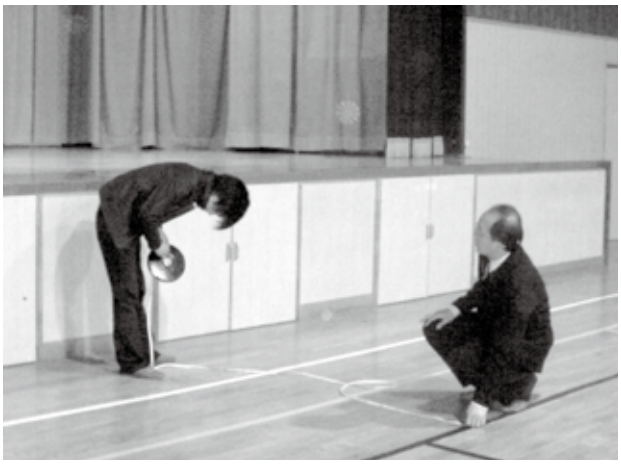


写真２　地方公演会場の下見

１回目の公演である楽友会コンサート以後，年末年始休暇をはさみ，それぞれが後期試験や卒業試験，卒業論文執筆に取り組む中，初の地方公演に向けた準備を進めた。１月下旬には代表学生２名と教員が八幡浜市を訪問し，会場となる松柏中学校の下見や体育館舞台の採寸を行った。体育館のステージが思ったより高く，せり出し舞台を設置するために，松柏中学校区内のみかん農家から，みかん用コンテナを数百箱借用して特設舞台を作る

ことになった。

（９）八幡浜公演

２月23日，学生74名，小・中学生５名，教員４名の総勢83名が大型バス２台に分乗し，舞台セットを積載した2tトラックともに，八幡浜市立松柏中学校を訪問した。午前中に舞台作りと照明等の仕込み，通し稽古を行い，午後から本番，撤収し，夕方までには大学に帰るというハードスケジュールであった。

高校入試をひかえインフルエンザの流行も心配されることから,松柏中学校からは１・２年生が参加した。また,近隣にある八幡浜市立八代中学校の２年生も午後の授業をカットして松柏中学校まで足を運んできてくれた。両校の教員と，この公演を聞きつけた市内小・中学校の音楽科教員，報道関係者（地方紙・CATV）ら，260名余が集まる中で，初のミュージカル地方公演を行った。公演の成果や中学生の反応は,後の調査研究の項で述べる。

写真３　附属学校公演の１コマ

(10) 附属学校公演

２月26日，附属小学校体育館において，午前中は附属小学校全校児童を対象に，午後は附属中学校１・２年生を対象として，２回公演を行った。昨年と同じ演目となったため，児童や生徒たちの反応や感想はさまざまであったが，最後の公演ということもあって，出演者の熱の入れ方には並々ならぬものがあった。

午前・午後の終演後には，児童・生徒が出演者に握手を求める列ができるなど，例年にはなかったハプニングもあり，学生たちと附属学校の児童・生徒の交流の場が自然と生まれた。

写真４　附属学校公演の１コマ

７　調査研究

（１）　アンケートの種類と回答人数

八幡浜公演と附属学校公演後に，アンケートを実施した。以下は，アンケートの種類と回答人数である。

A　鑑賞した児童・生徒対象のアンケート

種類・区分	回答人数
①　八幡浜市中学校生徒	２４１
②　附属小学校児童（４年生以上）	３０２
③　附属中学校生徒	２６４
合　　計	８０７

このアンケートの内容は，ミュージカルについての意見や感想，音楽の好みや経験，大学生への質問等である。小・中学生別に，少し質問文の表現をかえてはいるが，内容はほぼ同じである。（資料１・２）

B　鑑賞した教員対象のアンケート

種類・区分	回答人数
④　八幡浜市中学校教員	１５
⑤　附属小学校教員	１４
⑥　附属中学校教員	４
合　計	３３

前半に，児童・生徒のアンケートと対応するミュージカル公演に関する質問を行い，八幡浜市の教員には愛媛大学の広報活動に関する質問，附属学校の教員には，学部・附属の連携に関する質問を加えた。（資料４・５）

C　出演した児童・生徒・学生対象のアンケート

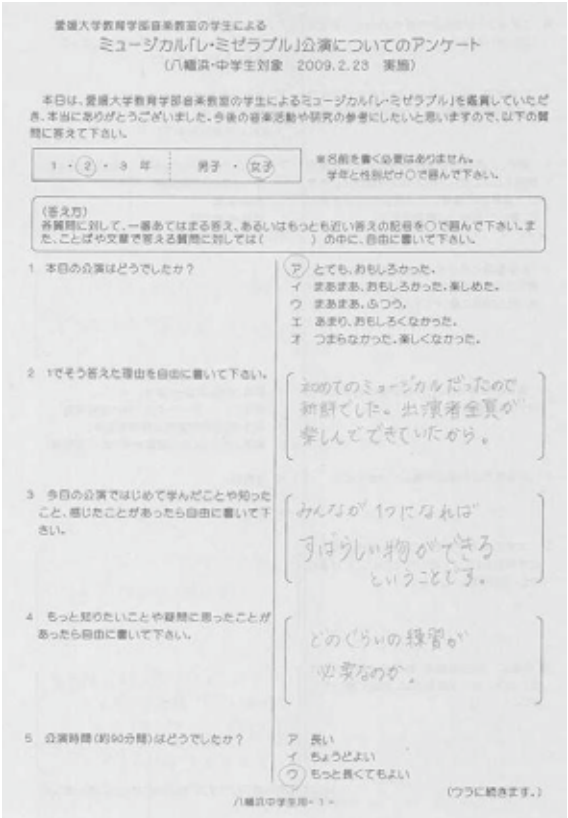
種類・区分	回答人数
⑦　大学生	６０
⑧　附属小学校６年生	３
⑨　附属中学校２年生	２
合　計	６５

ミュージカルに出演した成果や感想について，大学生と小･中学生の質問がそれぞれ対応するように工夫した。（資料６・７）

（２）アンケートの内容

以下は，実際に回収したアンケート用紙である。特に八幡浜市の中学生は真剣に回答しており，指導にあたった教員に感謝したい。アンケートとは別に，両校の中学生全員の感想文が，後日郵送されてきた。（資料３）

公演先の小・中学生からの回答や感想文は，出演した大学生に回覧し，次回公演への励みとした。



愛媛大学教育学部音楽教室の学生による
ミュージカル「レ・ミゼラブル」公演についてのアンケート
（八幡浜・中学生対象　2009.2.23　実施）

本日は，愛媛大学教育学部音楽教室の学生によるミュージカル「レ・ミゼラブル」を鑑賞していただき，本当にありがとうございました。今後の音楽活動や研究の参考にしたいと思いますので，以下の質問に答えて下さい。

1・(2)・3 年　男子・(女子)　※名前を書く必要はありません。学年と性別だけ○で囲んで下さい。

（答え方）
各質問に対して，一番あてはまる答え，あるいはもっとも近い答えの記号を○で囲んで下さい。また，ことばや文章で答える質問に対しては（　　）の中に，自由に書いて下さい。

1　本日の公演はどうでしたか？
(ア) とても，おもしろかった。
イ　まあまあ，おもしろかった。楽しめた。
ウ　まあまあ，ふつう。
エ　あまり，おもしろくなかった。
オ　つまらなかった。楽しくなかった。

2　1でそう答えた理由を自由に書いて下さい。
初めてのミュージカルだったので新鮮でした。出演者全員が楽しんでできていたから。

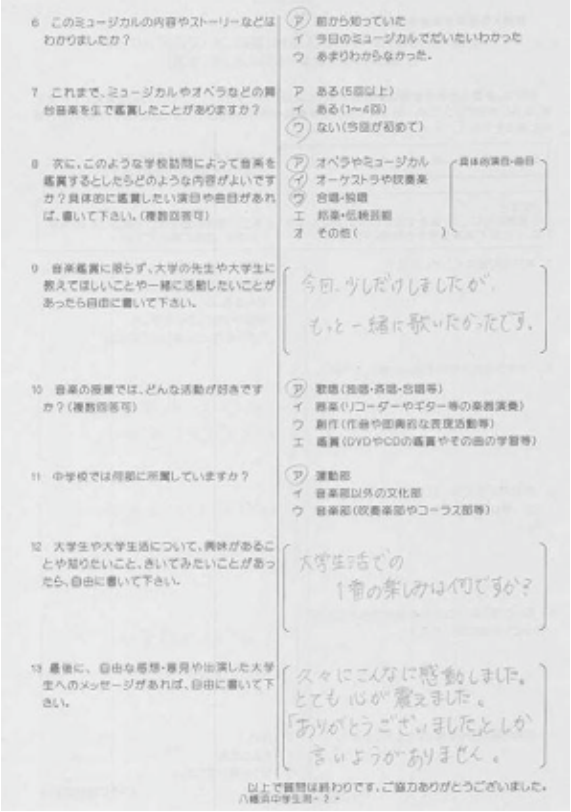
3　今日の公演ではじめて学んだことや知ったこと，感じたことがあったら自由に書いて下さい。
みんなが1つになれば すばらしい物ができるということです。

4　もっと知りたいことや疑問に思ったことがあったら自由に書いて下さい。
どのぐらいの練習が必要なのか。

5　公演時間（約90分間）はどうでしたか？
ア　長い
イ　ちょうどよい
(ウ) もっと長くてもよい

八幡浜中学生用－1－　（ウラに続きます。）

資料１　中学生対象（表）



6　このミュージカルの内容やストーリーなどはわかりましたか？
(ア) 前から知っていた
イ　今日のミュージカルでだいたいわかった
ウ　あまりわからなかった。

7　これまで，ミュージカルやオペラなどの舞台音楽を生で鑑賞したことがありますか？
ア　ある（5回以上）
イ　ある（1～4回）
(ウ) ない（今回が初めて）

8　次に，このような学校訪問によって音楽を鑑賞するとしたらどのような内容がよいですか？具体的に鑑賞したい演目や曲目があれば，書いて下さい。（複数回答可）
(ア) オペラやミュージカル
(イ) オーケストラや吹奏楽
(ウ) 合唱・独唱
エ　邦楽・伝統芸能
オ　その他（　　）
（具体的演目・曲目）

9　音楽鑑賞に限らず，大学の先生や大学生に教えてほしいことや一緒に活動したいことがあったら自由に書いて下さい。
今回，少しだけしましたが，もっと一緒に歌いたかったです。

10　音楽の授業では，どんな活動が好きですか？（複数回答可）
(ア) 歌唱（独唱・斉唱・合唱等）
イ　器楽（リコーダーやギター等の楽器演奏）
ウ　創作（作曲や即興的な表現活動等）
エ　鑑賞（DVDやCDの鑑賞やその曲の学習等）

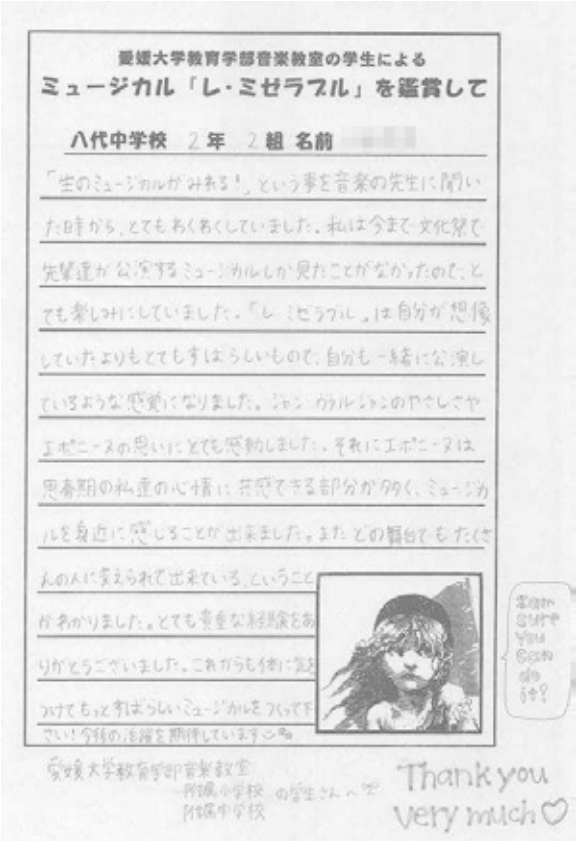
11　中学校では何部に所属していますか？
(ア) 運動部
イ　音楽部以外の文化部
ウ　音楽部（吹奏楽部やコーラス部等）

12　大学生や大学生活について，興味があることや知りたいこと，きいてみたいことがあったら，自由に書いて下さい。
大学生活での1番の楽しみは何ですか？

13　最後に，自由な感想・意見や出演した大学生へのメッセージがあれば，自由に書いて下さい。
久々にこんなに感動しました。とても心が震えました。「ありがとうございました」としか言いようがありません。

以上で質問は終わりです。ご協力ありがとうございました。
八幡浜中学生用－2－

資料２　中学生対象（裏）



愛媛大学教育学部音楽教室の学生による
ミュージカル「レ・ミゼラブル」を鑑賞して

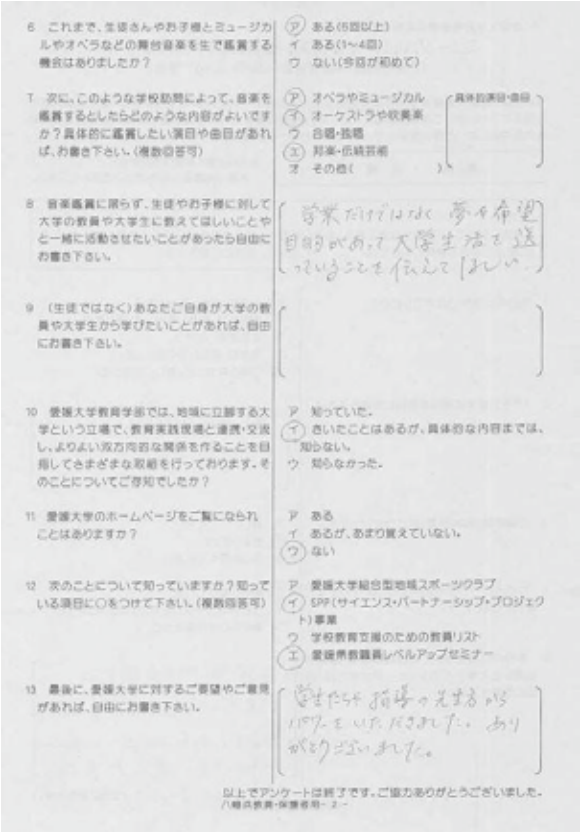
八代中学校　2 年　2 組　名前

「生のミュージカルがみれる！」という事を音楽の先生に聞いた時から，とてもわくわくしていました。私は今まで文化祭で先輩達が公演するミュージカルしか見たことがなかったので，とても楽しみにしていました。「レ・ミゼラブル」は自分が想像していたよりもとてもすばらしいもので，自分も一緒に公演しているような感覚になりました。ジャン・ヴァルジャンのやさしさやエポニーヌの思いにとても感動しました。それにエポニーヌは思春期の私達の心情に共感できる部分が多く，ミュージカルを身近に感じることが出来ました。またどの舞台でもたくさんの人に支えられて出来ている，ということがわかりました。とても貴重な経験をありがとうございました。これからも体に気をつけてもっとすばらしいミュージカルをつくってください！今後の活躍を期待しています。

愛媛大学教育学部音楽教室
附属小学校 の学生さんへ
附属中学校

Thank you very much♡

資料３　感想文



6　これまで、生徒さんやお子様とミュージカルやオペラなどの舞台音楽を生で鑑賞する機会はありましたか？
ア　ある（5回以上）
イ　ある（1～4回）
ウ　ない（今回が初めて）

7　次に、このような学校訪問によって、音楽を鑑賞するとしたらどのような内容がよいですか？具体的に鑑賞したい演目や曲目があれば、お書き下さい。（複数回答可）
ア　オペラやミュージカル
イ　オーケストラや吹奏楽
ウ　合唱・独唱
エ　邦楽・伝統芸術
オ　その他（　　）
具体的演目・曲目

8　音楽鑑賞に限らず、生徒やお子様に対して大学の教員や大学生に教えてほしいことや一緒に活動させたいことがあったら自由にお書き下さい。
音楽だけではなく 夢や希望 目的があって大学生活を送っていることを伝えてほしい。

9　（生徒ではなく）あなたご自身が大学の教員や大学生から学びたいことがあれば、自由にお書き下さい。

10　愛媛大学教育学部では、地域に立脚する大学という立場で、教育実践現場と連携・交流し、よりよい双方向的な関係を作ることを目指してさまざまな取組を行っております。そのことについてご存知でしたか？
ア　知っていた。
イ　きいたことはあるが、具体的な内容までは、知らない。
ウ　知らなかった。

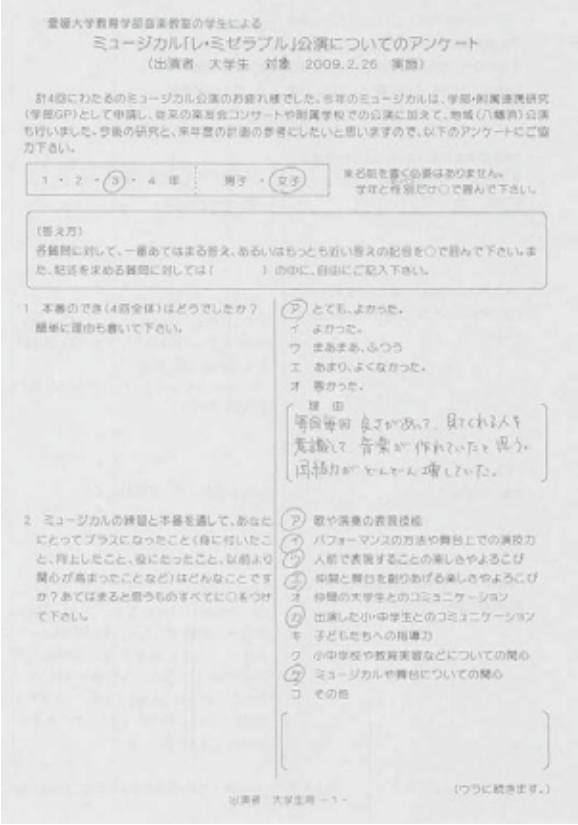
11　愛媛大学のホームページをご覧になられることはありますか？
ア　ある
イ　あるが、あまり覚えていない。
ウ　ない

12　次のことについて知っていますか？知っている項目に○をつけて下さい。（複数回答可）
ア　愛媛大学総合型地域スポーツクラブ
イ　SPP（サイエンス・パートナーシップ・プロジェクト）事業
ウ　学校教育支援のための教員リスト
エ　愛媛県教職員レベルアップセミナー

13　最後に、愛媛大学に対するご要望やご意見があれば、自由にお書き下さい。
皆さんから指導の先生方がパワーをいただきました。ありがとうございました。

以上でアンケートは終了です。ご協力ありがとうございました。
八幡浜教員・保護者用－2－

資料４　八幡浜市中学校教員



愛媛大学教育学部音楽教室の学生による
ミュージカル「レ・ミゼラブル」公演についてのアンケート
（出演者　大学生　対象　2009.2.26　実施）

計4回にわたるのミュージカル公演のお疲れ様でした。今年のミュージカルは、学部・附属連携研究（学部GP）として申請し、音楽の発表会コンサートや附属学校での公演に加えて、地域（八幡浜）公演も行いました。今後の研究と、来年度の計画の参考にしたいと思いますので、以下のアンケートにご協力下さい。

1・2・3・4年　男子・女子　※名前を書く必要はありません。学年と性別だけ○で囲んで下さい。

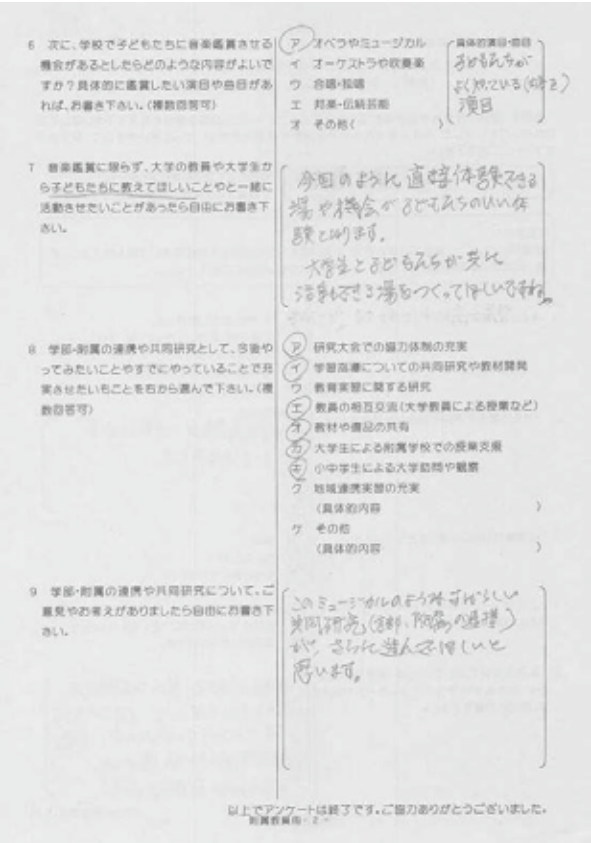
（答え方）
各質問に対して、一番あてはまる答え、あるいはもっとも近い答えの記号を○で囲んで下さい。また、記述を求める質問に対しては（　　）の中に、自由にご記入下さい。

1　本番のできは（4回全体）はどうでしたか？簡単に理由も書いて下さい。
ア　とても、よかった。
イ　よかった。
ウ　まあまあ、ふつう
エ　あまり、よくなかった。
オ　悪かった。
理由
毎回毎回 良さが違って、見てくれる人を意識して 音楽が作れていたと思う。団結力がどんどん増していた。

2　ミュージカルの練習と本番を通して、あなたにとってプラスになったこと（身についたこと、向上したこと、役にたったこと、以前より関心が高まったことなど）はどんなことですか？あてはまると思うもののすべてに○をつけて下さい。
ア　歌や演奏の表現技術
イ　パフォーマンスの方法や舞台上での演技力
ウ　人前で表現することの楽しさやよろこび
エ　仲間と舞台を創りあげる楽しさやよろこび
オ　他種の大学生とのコミュニケーション
カ　出演した小中学生とのコミュニケーション
キ　子どもたちへの指導力
ク　小中学校や教育実習などについての関心
ケ　ミュージカルや舞台についての関心
コ　その他

（つぎに続きます。）
出演者　大学生用－1－

資料６　大学生（表）



6　次に、学校で子どもたちに音楽鑑賞させる機会があるとしたらどのような内容がよいですか？具体的に鑑賞したい演目や曲目があれば、お書き下さい。（複数回答可）
ア　オペラやミュージカル
イ　オーケストラや吹奏楽
ウ　合唱・独唱
エ　邦楽・伝統芸術
オ　その他（　　）
具体的演目・曲目
子どもたちがよく知っている（歌える）演目

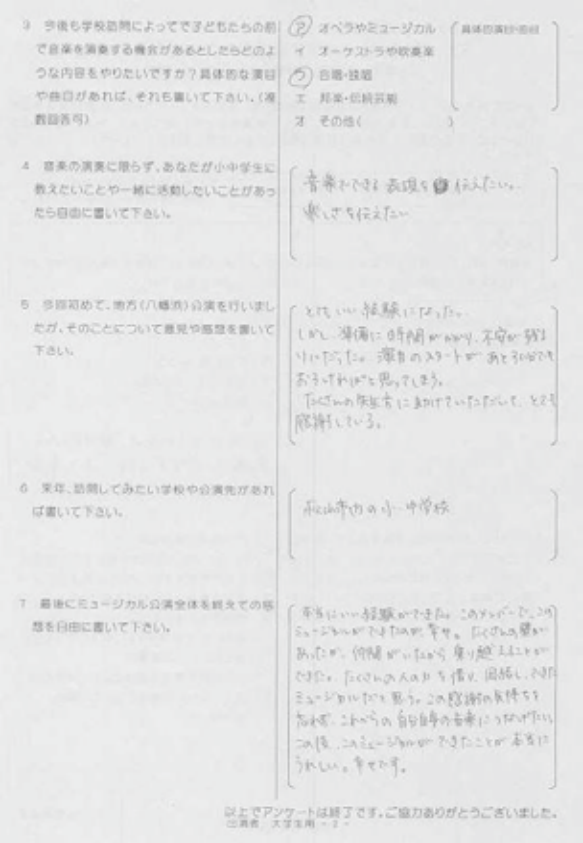
7　音楽鑑賞に限らず、大学の教員や大学生から子どもたちに教えてほしいことや一緒に活動させたいことがあったら自由にお書き下さい。
今回のように直接体験できる場や機会が子どもたちのいい体験となります。
大学生と子どもたちが共に活動できる場をつくってほしいです。

8　学部・附属の連携や共同研究として、今後やってみたいことやすでにやっていることで充実させたいものを右から選んで下さい。（複数回答可）
ア　研究大会での協力体制の充実
イ　学習指導についての共同研究や教材開発
ウ　教育実習に関する研究
エ　教員の相互交流（大学教員による授業など）
オ　教材や備品の共有
カ　大学生による附属学校での授業支援
キ　小中学生による大学訪問や観察
ク　地域連携実習の充実
（具体的内容　　）
ケ　その他
（具体的内容　　）

9　学部・附属の連携や共同研究について、ご意見やお考えがありましたら自由にお書き下さい。
このミュージカルのような新しい共同研究（音楽、附属の連携）がさらに進んでほしいと思います。

以上でアンケートは終了です。ご協力ありがとうございました。
附属教員用－2－

資料５　附属学校教員



3　今後も学校訪問によってでき子どもたちの前で音楽を演奏する機会があるとしたらどのような内容をやりたいですか？具体的な演目や曲目があれば、それも書いて下さい。（複数回答可）
ア　オペラやミュージカル
イ　オーケストラや吹奏楽
ウ　合唱・独唱
エ　邦楽・伝統芸術
オ　その他（　　）
具体的演目・曲目

4　音楽の演奏に限らず、あなたが小中学生に教えたいことや一緒に活動したいことがあったら自由に書いて下さい。
音楽でできる表現を伝えたい。
楽しさを伝えたい

5　今回初めて、他方（八幡浜）公演を行いましたが、そのことについて意見や感想を書いて下さい。
とてもいい経験になった。
しかし、準備に時間がかかり、不安が残りいただった。演奏のスタートがあと3秒でできればよかったと思ってしまう。
たくさんの保護者にあつまっていただいて、とても感謝している。

6　来年、訪問してみたい学校や公演先があれば書いて下さい。
飯山町立の小・中学校

7　最後にミュージカル公演全体を終えての感想を自由に書いて下さい。
本当にいい経験ができました。このメンバーでこのミュージカルができたのが幸せ。たくさんの壁があったが、仲間がいたから乗り越えることができた。たくさんの人の力を借り、団結し、これはミュージカルだと思う。この経験の気持ちを忘れず、これからの自分自身の音楽につなげたい。この後、このミュージカルができたことが誇りにふれいい。幸せです。

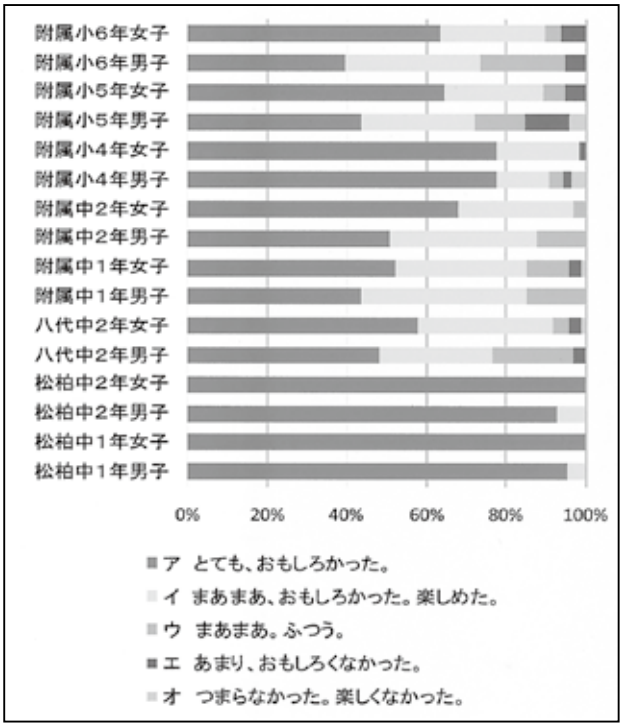
以上でアンケートは終了です。ご協力ありがとうございました。
出演者　大学生用－2－

資料７　大学生（裏）

（3）アンケートの結果

A　鑑賞した児童・生徒対象のアンケートから

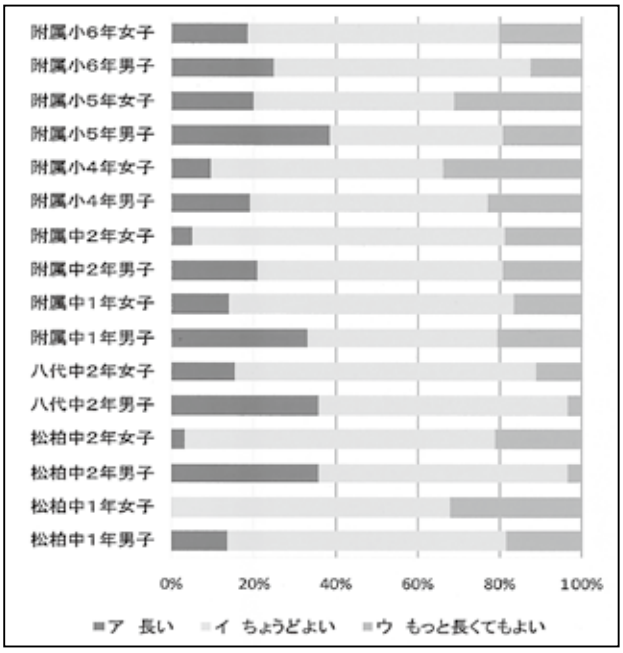
質問１　本日の公演はいかがでしたか？



グラフ１

○松柏中学校の生徒のほとんどが「ア」である。

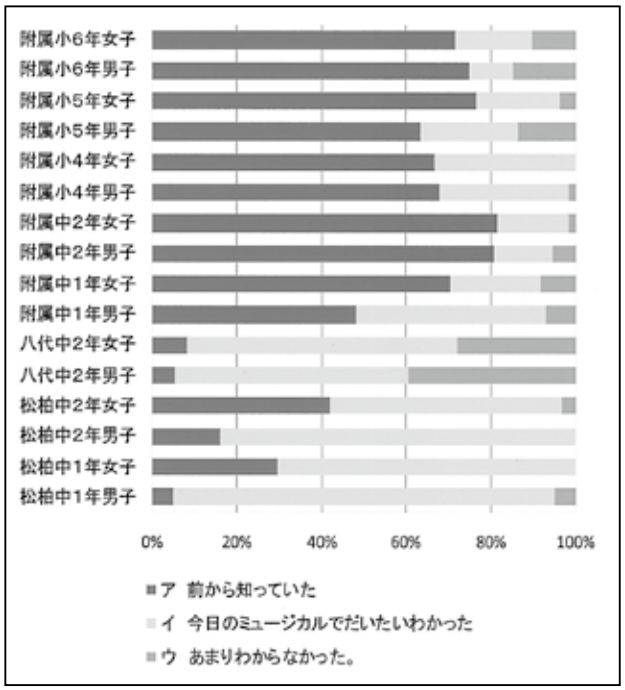
質問５　公演時間（約90分間）はどうでしたか？



グラフ２

○「ア　長い」と感じた児童・生徒は男子の方が多い。

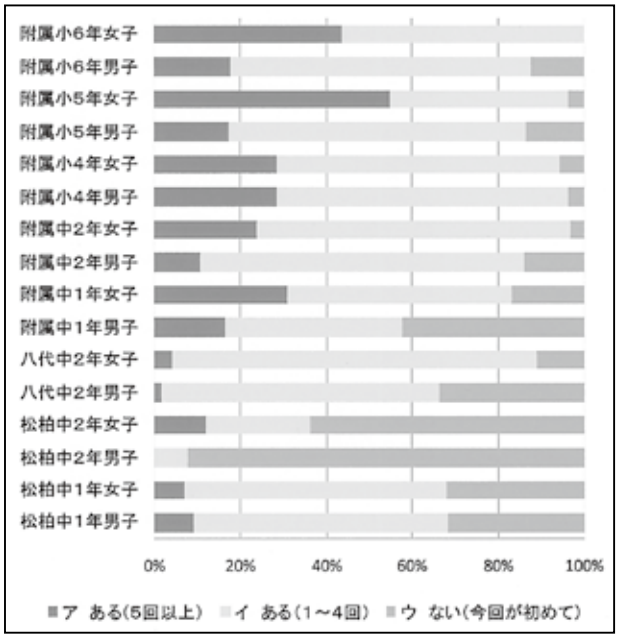
質問６　このミュージカルの内容やストーリーなどはわかりましたか？



グラフ３

○附属小・中学校は，昨年も観ているために内容は理解している児童・生徒が多い。

質問７　これまで，ミュージカルやオペラなどの舞台音楽を生で鑑賞したことがありますか？



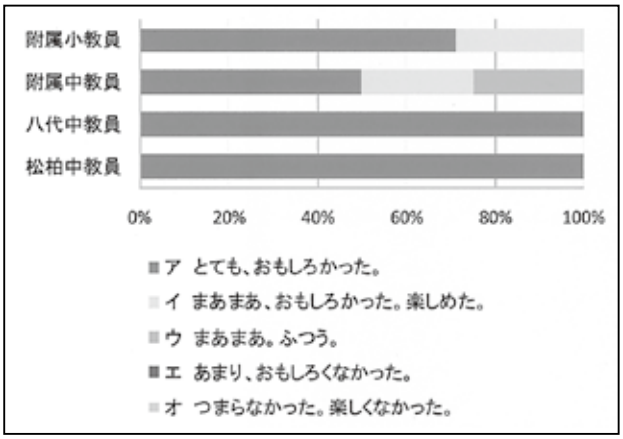
グラフ４

○附属小・中学生の方が，舞台音楽を観る機会は多い。附属小学校は毎年附属学校公演が行われきており，八

代中学校は文化祭でミュージカルを行っている。

B　鑑賞した教員対象のアンケートから

質問１　本日の公演はいかがでしたか？



グラフ５

○回答人数が少ないため割合だけでは推測はできないが，ほとんどの教員がミュージカルを楽しみ，大学生の訪問を歓迎した。

○自由記述欄から，ミュージカル公演の効果を多く見出せた。

◇身近な場所の大学生や小・中学生が，これほどの舞台を作ることができることを知ることは，中学生に大きな力を与えてくれたと思います。（松柏中教員）

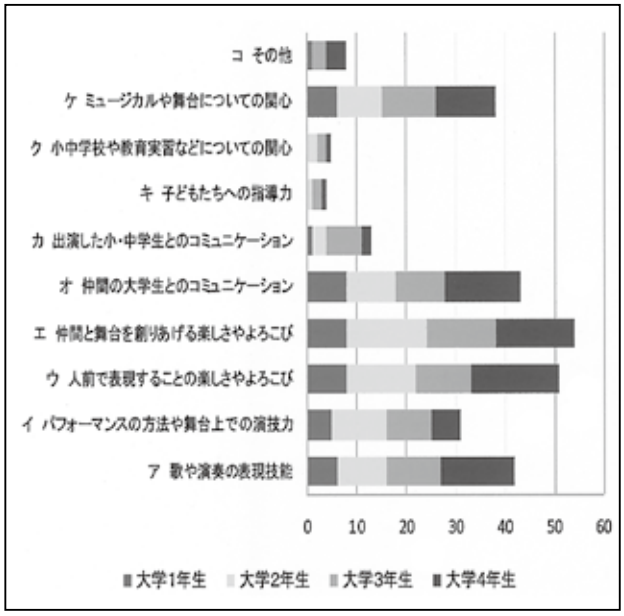
◇大学生の一生懸命さは生徒にも，よく伝わっていたと思います。人はいろいろな出会いによって成長していくと思います。今回の事業はとてもよい出会いだったと思います。（八代中教員）

◇公演後，舞台によって握手を求めたのは，子どもたちの自然な動きです。すばらしかったです。（附属小教員）

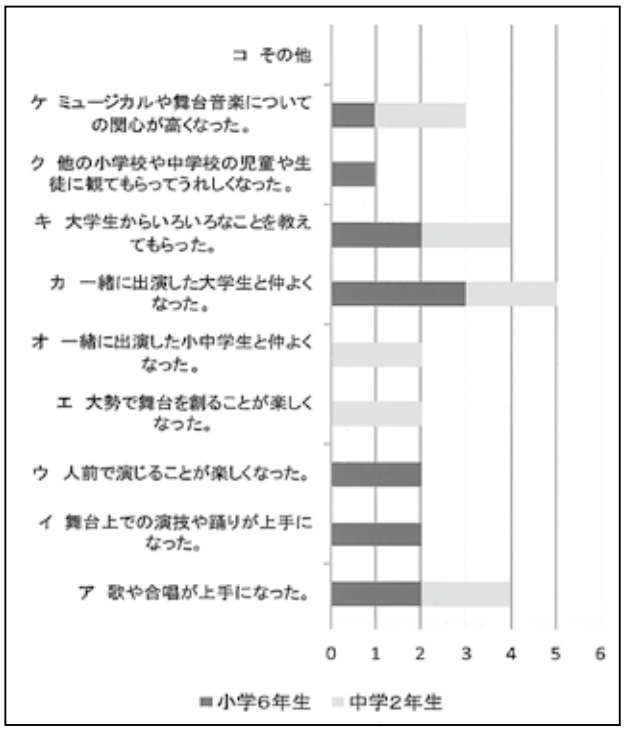
◇附属小・中と他の学校の違いはバックにシンクタンクとなる大学がついていることだと思う。このメリットを最大限活用していくことで，より教育効果が高まると思う。（附属中教員）

C　出演した児童・生徒・学生対象のアンケートから

質問２　ミュージカルの練習と本番を通して，あなたにとってプラスになったこと（身に付いたこと，向上したこと，役にたったこと，以前より関心が高まったことなど）はどんなことですか？あてはまると思うものすべてに○をつけて下さい。



グラフ６



グラフ７

○大学生に最も多いのが，仲間との一体感や舞台を創りあげたことへの充実感，人前で表現することの喜びである。

○小・中学生は，大学生から指導を受けたことや大学生との交流をプラスに感じている。

○大学生と小・中学生ともに，歌や合唱の技能は向上したと答えている。また，ミュージカルや舞台音楽への関心も高まっている。

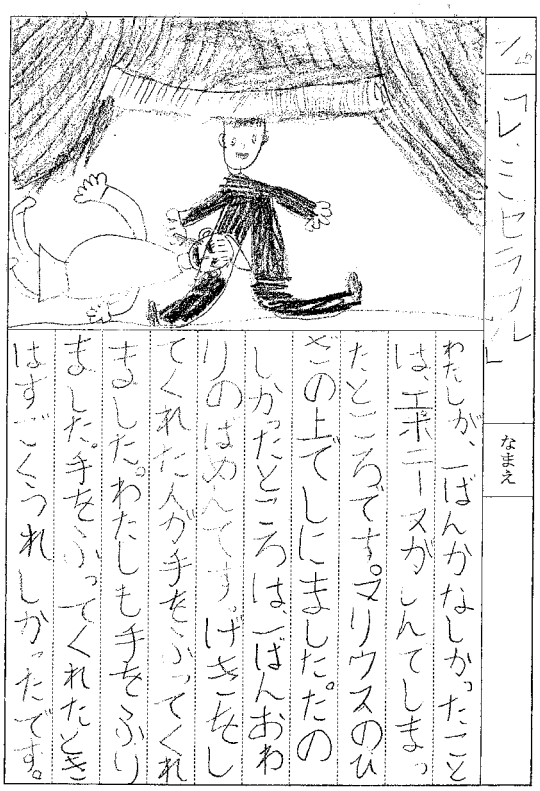
8　考察　－仮説の検証と研究の成果－

【仮説１】について

八幡浜公演は，ミュージカルや伴奏のオーケストラにはじめて接する生徒が多く，アンケートや感想文から，初の地方公演が有意義であったことは確かである。再演を願う声も多数寄せられ，また，ローカル新聞やケーブルテレビ局から取材を受けるなど反響は大きく「本学の教育活動の一環を広く公表する」「地域の音楽文化発展にも寄与する」の２点について大きな成果があった。

【仮説２】について

児童・生徒・学生のアンケートから，このミュージカル公演で得た最も大きなものが「仲間とともに舞台を創りあげていく楽しさや喜び」であったことがわかった。また，鑑賞した児童・生徒も，音楽を通した大学生との交流を楽しんだ。そして，その場面をほほえましく見つめる教師の目もあった。



資料８　小学１年生の感想文

今回，アンケートの集計には入れていないが，附属小学校１～３年生からも感想文が届いている。資料８は，小学校１年生の感想文である。小学校から中学生が一つのミュージカルをしっかりと見つめ，音楽のすばらしさ，人間の表現のすばらしさに気付くことができた。

すべてのアンケートや感想文に，感謝のことばが多数あり，心のコミュニケーションが，それぞれの学校・学生生活に大きな充実感をもたらしたものと考える。

その後の小・中学校の児童・生徒の様子を聞くと，音楽のもっている力を認識している子どもが増え，表現することの楽しさや喜びを感じながら，歌ったり演奏したりしているようになったという。また，原作の「ああ無情」を読む子どもも増えたそうである。

【仮説３】について

出演した小・中学生にとって大学生から学んだことは大きかったようだ。しかし，大学生のアンケートからは「指導技術が向上した」あるいは「教職への意識が高まった」というような感想は，あまり発見できなかった。それ以上に，自分自身の表現力の向上や舞台を成功させることへの思いで必死だったようである。今後も，この取組を継続し，経験を重ねられれば，教育への意識やスキルも身に付くと考えたい。

9　おわりに　－今後の課題－

【仮説３】の検証をするために，今後も，継続的に大学生による小･中学生への指導場面を設定したい。ミュージカルのみならず，附属小・中学校の音楽の授業でも大学生の表現活動によるアシスタントの機会を設けたい。

八幡浜市内の中学校からも，附属学校からも，今後ともミュージカル公演を継続してほしいという声は大きく，また，自分もミュージカルに参加したいという意見も多数あった。（グラフ８）

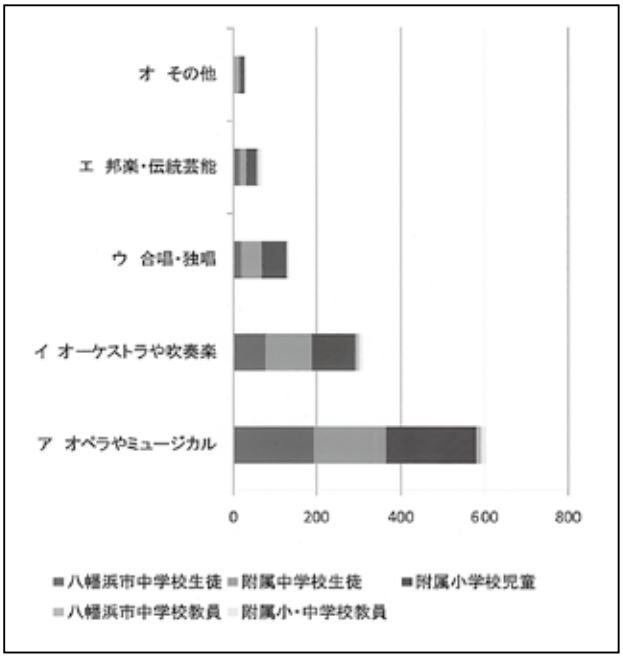
しかし，小･中学校においては，「総合的な学習の時間」の削減，選択教科の実質的な廃止などによって，さかんに行われるようになった学校劇やミュージカルが，時間確保ができないという理由で継続がむずかしくなっている。松山市内のある中学校では，文化祭の目玉として恒例であった選択音楽履修生によるミュージカルは21年度が最後になるという話もきいた。

本研究のような大学生によるミュージカルの出張公演を通して，公演先の児童・生徒と音楽で交流し，一部でも共演できるような取組や演出の工夫を行えば，音楽の授業や学校行事の新しい形を生む可能性もある。

とはいえ，本学教育学部においても，音楽履修生の募

集定員は半減し，大きな労力を要するミュージカルを今後も継続していくことは，次第に困難な状況になりつつある。本研究を通して得た地域との連携・協力体制をより深めながら，今後も，大学と地域とをつなぐ音楽表現活動の在り方を模索したい。

質問　次に，このような学校訪問によって音楽を鑑賞するとしたらどのような内容がよいですか？（複数回答可）



グラフ８

本研究に際して実施したアンケートには未処理の項目が多数ある。アンケートの結果はすべて個別に集計しており，性や学年の差異，音楽経験との相関等によって，より効果的なミュージカル上演の方法を見出そうとするものであった。時間をかけて分析を行い，今後の演目決定や演出のヒント，表現技能の課題発見に役立てたい。

また，教員からは愛媛大学と地域，教育学部と附属学校の連携に関する質問の回答を得ているが，標本数が少ないこともあって，本研究では活用できていない。今後ともデータの蓄積を行っていきたい。

なお，本稿は，平成20年度教育学部長裁量経費による教育・研究促進（学部・附属学校園共同研究助成）事業にかかる研究成果の一部を報告するものである。

参考資料・引用文献等

（1）エンタテインメント白書2008／ぴあ総合研究所／2008
（2）クラスでつくる小さな合唱劇／ＢＭＧファンハウス総合ガイドブック／2000
（3）井上　洋一／表現活動の総合化を目指して～創作ミュージカルにチャレンジ～／平成13年度第32回中国･四国音楽教育研究大会（徳島大会）大会要項／2001
（4）西沢 久実／ミュージカル活動において自己表現力が育つ過程～音楽科の指導内容に注目して～／学校音楽教育研究，日本学校音楽教育研究会紀要11／2007
（5）虫明 眞砂子／教員養成におけるミュージカル活動に関する一考察／ 岡山大学教育実践総合センター紀要８（1）／2008
（6）とくおん　創立50周年記念誌／愛媛大学教育学部特音・音文同窓会／2008
（7）ミュージカルサウンドシリーズ「レ・ミゼラブル」／ドレミ楽譜出版社／1987
（8）東宝「レ・ミゼラブル」公式ＨＰ／URL(http://www.tohostage.com/lesmiserables/top.html)／2008